

2023年度 教職課程(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
<p>1-1教職課程教育の目的・目標の共有</p> <p>① 教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知できている。</p> <p>② 育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施できている。</p> <p>③ 教職課程教育を通して育もうとする学修成果(ラーニング・アウトカム)が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図ることができている。</p>	<p>①教職課程教育の目的・目標ならびに育成を目指す教師像についてはHPIに公表するとともに履修要項等に掲載することで学生への周知を図っている。</p> <p>②学科会議や教職委員会等で共有を図っている。</p> <p>③DP到達度チェックシート、履修カルテ、教職履修者ポートフォリオ等のツールを用いて学習成果の可視化に努めている。</p>	<p>①80%</p> <p>②80%</p> <p>③70%</p>	<p>①ほぼ達成されている。</p> <p>②ほぼ達成されている。</p> <p>③おおむね達成されている</p>	<p>①公表しているが学生の理解度に課題がある。</p> <p>②教職関係教員には共有されているが、それ以外の教員の理解には十分とは言えない。</p> <p>③学習成果の可視化に努めているが、ツールの選択や学生の関心には課題がある。</p>	<p>人間学部)様々な可視化ツールを整理することで改善を図る必要がある。学生自身がその意義を理解し、積極的に活用するような意識を醸成する。教職をめざさない学生に別様な評価基準の設定を検討する必要がある。</p> <p>外国語学部)教職課程に携わらない学部教員の理解をさらに深め、学部が一致して教職履修学生を支援できる体制作りが必要である。年度当初の学部教授会において、教職課程の教育目的・目標および育成を目指す教師像を提示し、共通の理解が得られるように図る。</p>
<p>1-1教職課程教育の目的・目標の共有</p> <p>① 教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知できている。</p> <p>② 育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施できている。</p> <p>③ 教職課程教育を通して育もうとする学修成果(ラーニング・アウトカム)が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図ることができている。</p>	<p>①認定基準を踏まえた教員配置、教職課程センターと教職委員会の協働体制がなされている。</p> <p>②全学組織と学部学科との適切な役割分担はほぼできている。</p> <p>③施設・設備はほぼ整備されている。</p> <p>④全学でFD・SDを実施できている。</p> <p>⑤教職課程に関わる情報の公表はできている。</p> <p>⑥自己点検・評価報告書の作成と共に年度ごとの振り返りを実施している。</p>	<p>①90%</p> <p>②90%</p> <p>③90%</p> <p>④90%</p> <p>⑤100%</p> <p>⑥100%</p>	<p>①ほぼ達成されている。</p> <p>②ほぼ達成されている。</p> <p>③ほぼ達成されている。</p> <p>④ほぼ達成されている。</p> <p>⑤達成されている。</p> <p>⑥達成されている。</p>	<p>①認定基準を踏まえた教員審査を行い、教職員間の協働体制は構築できているが、意思疎通には若干の課題がある。</p> <p>②センターと学部学科との連携はできているが、二つのセンター間の情報共有に若干の課題がある。</p> <p>③情報通信機器の環境は整備されているが、活用部分では課題もある。</p> <p>④本年度も、FD・SD研修を実施したが、さらに参加数を増やす必要がある。</p> <p>⑤ホームページでの公表ができている。</p> <p>⑥今年度の自己点検・評価書を年度末に作成することができた。</p>	<p>人間学部では、教職課程センターと学科との情報共有をさらに密に図っていく必要がある。</p> <p>外国語学部では、学部全教員の教職課程への理解を深める中で、学部課程と教職課程がそれぞれ改善を図れるよう、またそれにより教職課程履修学生が不利益を被ることをないよう調整を進める必要がある。</p> <p>次年度は、両キャンパスの教職課程センター長を統合することで、さらに連携を深め、教職課程の改善、質の向上に努めていく。</p>

2024年度 教職課程

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
<p>1-1教職課程教育の目的・目標の共有</p> <p>① 教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知できている。</p> <p>② 育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施できている。</p> <p>③ 教職課程教育を通して育もうとする学修成果(ラーニング・アウトカム)が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図ることができている。</p>
<p>1-2教職課程に関する組織的な工夫</p> <p>① 教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築できている。</p> <p>② 教職課程の運営に関して全学組織(教職課程センター等)と学部(学科)の教職課程担当者として適切な役割分担を図ることができている。</p> <p>③ 教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT教育環境の適切な利用に関しても可能となっている。</p> <p>④ 教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD(ファカルティ・ディベロップメント)やSD(スタッフ・ディベロップメント)の取り組みを展開できている。</p> <p>⑤ 教職課程に関する情報公表を適切に行うことができている。</p> <p>⑥ 全学組織(教職課程センター等)と学部(学科)教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検・評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能させようとしている。</p>

2023年度 教職課程(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p> <p>1-2教職課程に関する組織的な工夫 ① 教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築できている。 ② 教職課程の運営に関して全学組織(教職課程センター等)と学部(学科)の教職課程担当者として適切な役割分担を図ることができている。 ③ 教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT教育環境の適切な利用にも可能となっている。 ④ 教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD(ファカルティ・ディベロップメント)やSD(スタッフ・ディベロップメント)の取り組みを展開できている。 ⑤ 教職課程に関する情報公表を適切に行うことができている。 ⑥ 全学組織(教職課程センター等)と学部(学科)教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検・評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能させようとしている。</p>	<p>D:計画を実行しその効果を測定する。</p> <p>①APを踏まえた育成すべき教師像を設定して、選抜や履修ガイダンスを実施している。またオープンキャンパスの機会に説明している。②人間学部では教育実習の実施について、外国語学部では履修継続について、厳格な要件、基準を設定している。③過大でない履修学生の規模となっている。④履修カルテ、教職履修者ポートフォリオを活用し個別指導を含む丁寧な教職指導を行っている。</p>	<p>実施状況(実施率)</p> <p>①80% ②80% ③80% ④90%</p>	<p>C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。</p> <p>評価</p> <p>①おおむね達成されている。 ②おおむね達成されている。 ③おおむね達成されている。 ④ほぼ達成されている。</p>	<p>評価の理由/課題/根拠データ等</p> <p>①両学部とも周知はされているが、学生の確保には十分につなげられていない。②厳格な基準が設けられているが、外国語学部ではそれが履修者の減少につながっている面もある。③むしろどう履修者を増やしていくかが今後の課題である。④「履修カルテ」等を活用した丁寧な教職指導が行われている。一方で課題をもつ学生の指導をどうしていくかが課題である。</p>	<p>A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる</p> <p>人間学部では、入学学生の質が多様化しており、基礎学力やコミュニケーション能力に課題のある学生も増加している。個別指導はもちろん、「入学前教育」、「初年次教育」、学習サポートシステム等のいっそうの充実・改善が今後の課題である。外国語学部では、ガイダンスや授業で、教職課程の意義やその重要性を伝えながら、学生の履修意欲を喚起し、教職へのモチベーションを保てるように取り組んでいく。さらにその効果を上げるためにも担当の教員や教職課程センターがこれまで以上に連携を図っていく。</p>
<p>2-1教育課程を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成 ① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受け入れの方針」等を踏まえて設定し、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施できている。 ②「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定できている。 ③「卒業認定・学位授与の方針」等も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れることができている。 ④「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導を行うことができている。</p>	<p>①ガイダンスや個別面接の機会等を活用して意欲や適性の把握に努めている。②教職課程センターとキャリアセンターを通じて組織的なキャリア支援を行っている。③教職課程センターにおいて掲示板だけでなく、ガイダンスや個別指導で情報提供を行っている。④授業や個別指導に加え、実習報告会、採用試験対策講座も活用した支援を行っている。⑤卒業生の話や教育委員会の講演などを実施している。</p>	<p>①90% ②90% ③90% ④100% ⑤90%</p>	<p>①ほぼ達成されている。 ②ほぼ達成されている。 ③ほぼ達成されている。 ④達成されている。 ⑤ほぼ達成されている。</p>	<p>①意欲や適性の把握はできている。ただ適性に欠ける学生のキャリア指導をどう進めるかは課題である。②キャリア支援の体制は十分に整えられている。また③情報提供も適宜行われている。ただそれらを十分に活かされていない学生も存在する。④十分な時間を取って採用試験対策講座が行われ、成果をあげている。⑤多様な人材を活かしたキャリア支援が行われているが、文京区教育委員会や併設中学校との連携の強化は今後の課題である。</p>	<p>人間学部では、たんに就職率を高めるということではなく、本人の適性や意向を十分に把握し、個に応じたキャリア指導をしていくことが必要である。また学生のモチベーションを高めるための指導や支援の工夫も引き続き重要な課題である。外国語学部では、履修要件の一つに英検やTOEICのスコアを満たせず、参加することを断念せざるを得ない事例もみられた。この課題を解決するために英語力向上講座の実施や学習サポートセンター主催によるTOEIC・英検サポートプログラム等への参加を継続的に働きかけていく。</p>

2024年度 教職課程

PLAN(計画)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p> <p>2-1教育課程を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成 ① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受け入れの方針」等を踏まえて設定し、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施できている。 ②「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定できている。 ③「卒業認定・学位授与の方針」等も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れることができている。 ④「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導を行うことができている。</p>
<p>2-2教職課程へのキャリア支援 ①学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握できている。 ②学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行うことができている。 ③教職に就くための各種情報を適切に提供できている。 ④教員免許状取得件数・教員就職率を高める工夫ができている。 ⑤キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図ることができている。</p>

2023年度 教職課程(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p>	<p>D:計画を実行しその効果を測定する。</p>	<p>実施状況 (実施率)</p>	<p>C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。</p>	<p>評価</p>	<p>A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる</p>
<p>2-2教職課程へのキャリア支援 ①学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握できている。②学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行うことができている。 ③教職に就くための各種情報を適切に提供できている。④教員免許状取得件数・教員就職率を高める工夫ができている。 ⑤キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いていない卒業生や地域の多様な人材等との連携を図ることができている。</p>	<p>①「自立と共生」という本学の理念に基づく大学特別科目や学部共通科目を配置している。②カリキュラムマップを作成し、コアカリキュラムに対応した教育課程を編成している。③教員育成指標を踏まえながら内容上の工夫を行っている。④多くの情報科目を設置するとともに指導法の授業でも活用する機会を設けている。⑤多くの授業でアクティブラーニングの視点からグループワーク等に取り組んでいる。⑥シラパスの内容については作成マニュアルを作り、シラパスチェックをすることで対応している。 ⑦教育実習に向けて厳格な履修要件を設定し、単位不足学生には丁寧な指導を行っている。⑧履修カルテ(人間学部)や教職履修者ポートフォリオ(外国語学部)を活用した丁寧な教職指導を行っている。</p>	<p>①100% ②80% ③90% ④80% ⑤80% ⑥100% ⑦90% ⑧80%</p>	<p>①達成されている。 ②おおむね達成されている。 ③ほぼ達成されている。 ④おおむね達成されている。 ⑤おおむね達成されている。 ⑥達成されている。 ⑦ほぼ達成されている。 ⑧おおむね達成されている。</p>	<p>①本学の理念に基づく特色ある科目が配置されている。②コアカリキュラムに対応した教育課程編成がなされているものの、外国語学部では、他の専門科目との系統性という点で学部全体での問題意識の共有が必要である。③今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。④設備面では充実している。今後は電子教科書化への対応を進める必要がある。⑤様々な工夫がされているが、それが問題解決の力量形成に実際につながっているかどうかは明確ではない。⑥教務主導でシラパスチェック体制が構築されている。⑦厳格な履修要件が設定されている。⑧「履修カルテ」や「教職履修者ポートフォリオ」を活用している。ただそれを自らの学びに向けてどう意識化させるかは引き続きの課題である。</p>	<p>今年度から東京都教員採用試験の三年次受験が可能となり、次年度からは埼玉を含む周辺自治体もそれに追隨する。人間学部では、採用試験の早期化に対応するために教育実習の三年後期への前倒しを予定している。変更を円滑に進めていくことが次年度の課題である。外国語学部では、「教職履修者ポートフォリオ」を学生の学びの意識化につなげること、学生の教職課程に関わる学修時間を確保することが課題である。</p>
<p>3-1教育課程カリキュラムの編成・実施 ①教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行うことができている。 ②学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成することができている。 ③教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫ができている。④今日の学校におけるICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導を行うことができている。 ⑤アクティブ・ラーニング(「主体的・対話的で深い学び」)やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成することができている。 ⑥教職課程シラパスにおいて、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示すことができている。 ⑦教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行うことができている。 ⑧「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かすことができている。</p>	<p>①人間学部では「実習基礎演習Ⅰ」(1年)、「教育実習Ⅰ」(2年)、「教育実習Ⅱ」(4年)、「社会貢献実習(学校インターンシップ)」(1~4年)など、実践的指導力を育成するための科目を継続的に配置している。外国語学部では「学校インターンシップ」に2年から4年の教職履修学生が参加できる仕組みになっている。②介護等体験、学校インターンシップを実施し、活動報告書の作成や体験報告会によって振り返りの機会を設けている。③現職教員や園長、教育長の講話など最新の教育事情を学ぶ機会を設けている。 ④人間学部ではふじみ野市教育委員会、近隣の公立学校との連携・協力体制を構築している。⑤人間学部では年一回実習協議会を開催している。</p>	<p>①90% ②90% ③80% ④90% ⑤80%</p>	<p>①ほぼ達成されている。 ②ほぼ達成されている。 ③おおむね達成されている。 ④ほぼ達成されている。 ⑤おおむね達成されている。</p>	<p>①人間学部では実践的指導力を養成するための場が系統的に用意されている。外国語学部では現に用意されている実践の場をどう生かしていくかが今後の課題である。②人間学部では報告書、外国語学部では報告会という形で振り返りの機会が設けられている。③人間学部では併設園や教育委員会とも連携して様々な機会が用意されている。外国語学部では、併設校や連携中学校の協力のもとに進めていく必要がある。④人間学部ではふじみ野市教育委員会との連携が図られている。外国語学部では地元中学と連携協力が図られているが、内容のさらなる実質化が課題である。⑤外国語学部では地元連携校や併設校との連携内容の充実が課題である。</p>	<p>人間学部では実践的指導力の形成に結び付く社会貢献活動の場が様々な用意されているが、学生が社会貢献活動の意義を理解し、参加への意欲を持つようになるため、支援体制の強化も含め対応策を検討していく必要がある。外国語学部では、実践的取組に入る以前に、英語力を身につけるための仕組みづくりが必要と思われる。また文京区立第六中学校との連携協定をさらに活かし、学校現場での体験を充実させていくことが今後の検討課題である。</p>
<p>2023年度 教職課程(結果)</p>	<p>2023年度 教職課程(結果)</p>		<p>2023年度 教職課程(結果)</p>		<p>2023年度 教職課程(結果)</p>

2024年度 教職課程

PLAN(計画)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p>
<p>3-1教育課程カリキュラムの編成・実施 ①教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行うことができている。 ②学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成することができている。 ③教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫ができている。④今日の学校におけるICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導を行うことができている。 ⑤アクティブ・ラーニング(「主体的・対話的で深い学び」)やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成することができている。 ⑥教職課程シラパスにおいて、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示すことができている。 ⑦教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行うことができている。 ⑧「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かすことができている。</p>
<p>3-2実践的指導力養成と地域との連携 ①取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定できている。 ②様々な体験活動(介護等体験、ボランティア、インターンシップ等)とその振り返りの機会を設けることができている。 ③地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けることができている。④大学ないし教職課程センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図ることができている。 ⑤教職課程センター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図ることができている。</p>

2023年度 教職課程(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p>	<p>D:計画を実行しその効果を測定する。</p>	<p>実施状況 (実施率)</p>	<p>C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。</p>		<p>A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる</p>
<p>3-2実践的指導力養成と地域との連携 ① 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定できている。 ② 様々な体験活動(介護等体験、ボランティア、インターンシップ等)とその振り返りの機会を設けることができている。 ③ 地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けることができている。 ④ 大学ないし教職課程センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図ることができている。 ⑤ 教職課程センター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図ることができている。</p>			<p>評価</p>	<p>評価の理由/課題/根拠データ等</p>	

2024年度 教職課程

PLAN(計画)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p>